

学校だより 1 月号

令和 5 年 1 月 10 日
鴻巣市立小谷小学校

小谷っ子

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

URL <https://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月 19 日は「食育の日」です



込められた意味 思い

校長 棚澤 大輔

新しい年を迎え、令和 5 年となりました。令和 4 年度の学校生活も残り 3 か月となります。これまで保護者や地域の皆様にご支援・ご協力をいただきながら、様々な教育計画を実施することができ、それらを通して子どもたちは一つひとつ成長するとともに、学校生活のよい思い出を積み重ねることができました。皆様におかれましては、3 学期も引き続き本校の教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

年末年始は皆様いかがお過ごしになられたでしょうか。きっと、昔から日本、または地域ごとに行われている取組に参加することもあったのではないかと思います。そうした伝統文化に触れる機会が日頃よりも多いのが年末年始です。伝統と言ってもその在り様は様々で、長い間しきたりを守り、変わらないものもあれば、少しずつ形を変えつつも大切にしたいところは変わらず受け継いできたというものもあるようです。どちらにせよ、伝統という長く受け継がれてきたものには、私たちがここで生活するうえで大切なことが含まれており、その意味を考えながら取り組んでいくことで、先人の知恵を学び、これからの私たちの生活に活かしていければと思う次第です。

さて、そうした伝統の一つとして、今回はおせち料理を取り上げてみたいと思います。年末の風物詩として、横丁や市場での威勢の良い販売風景が報道されたり、コマーシャルでも多く見かけたりしますので、お正月と言えばおせち料理、というのは多くの人が連想するものではないでしょうか。この伝統にもちゃんと「食べる意味」があるとのこと。一般的にはそれぞれに縁起物としての意味がありますが、様々な正月の行事と同じように、五穀豊穡や無病息災、子孫繁栄などを願う思いがおせち料理には込められているのは皆さんご存じのとおり。

この「一つ一つに意味を持たせる。思いを込める。」というのは、学校での教育活動でも思いは同じです。私が教師となったころ、体育の授業を終えて運動場から戻ってきた私に教頭先生が「なぜ、あの準備運動を行ったのか？」と問われたことがありました。屈伸やアキレス腱などの一連の動きをやるのが当たり前としか思っていなかった私に、教頭先生は、「一つ一つの動きには意味があって、そのあとの運動にどうつながるか考えて構成するのだ。」と教えてくださいました。また、ある先輩からは、「アキレス腱といっても歩幅の上げ方やひざの曲げ方次第で伸びる場所、効果が違うものになってしまう。また、今はここを伸ばしているのだよと声をかけてあげることで子どもたちはより意識をし、効果が上がる。」ということも教わりました。

活動することが目的ではなく、その活動を通してどんな力を身に付けさせていくのか。そして、その活動の中、教師のねらいや考え・思いをこめて指導に当たる。そのようにして一つ一つの活動に意味をもたせ大切に取り組んでいくことにより、身に付けたいものが身に付くようになる。これは日頃の生活全般にも通じることで、いつも何気なく行っている取組も、本来の意味をあらためて意識して行うことでその効果は増大していくのだと私は考えています。

話を戻して、「食べる」ということについて。実は、小谷っ子の給食を見ていて思うところが一つ。「これは苦手だから食べない。」ということを経々耳にします。アレルギーということや食が細いという子もいますので一概には、とも思いますが、目の前に給食が準備されている意味、一つ一つの食材が用意されている意味といったことを考えさせながら給食指導することも考えていきたいなと思っています。3 学期は地域の方々にお世話になって 5・6 年生が稲刈り体験させていただいた際のお米を給食で食す機会もあります。ぜひ、ご家庭でも食事の際の話題の一つに取り上げてみてください。

